

経営比較分析表（令和5年度決算）

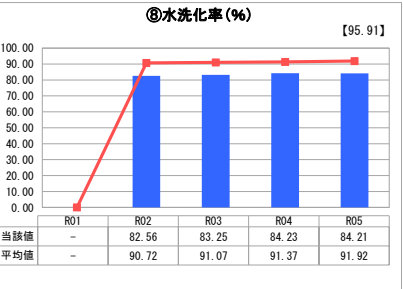
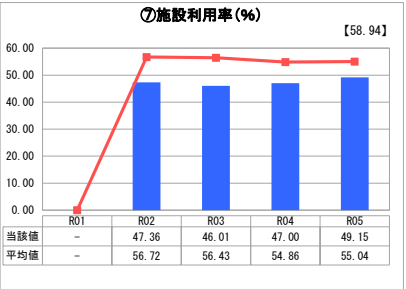
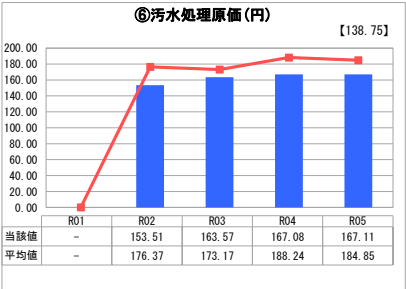
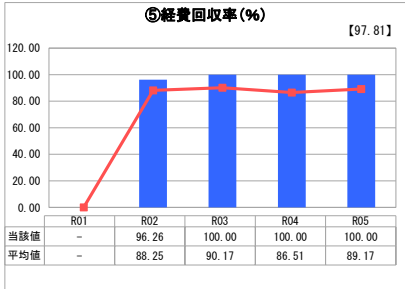
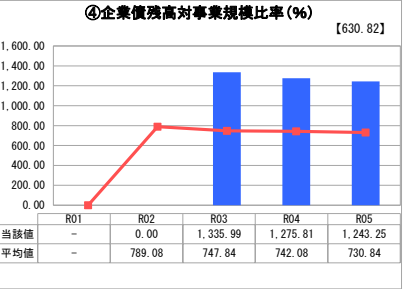
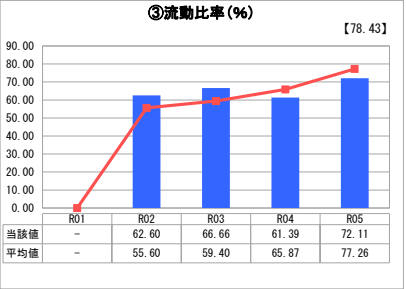
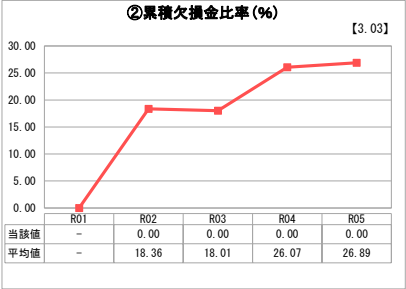
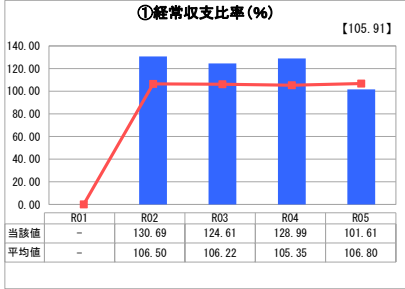
栃木県 矢板市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	62.40	39.44	66.57	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,577	170.46	179.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
11,996	4.90	2,448.16

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っています。しかし、経費の一部を使用料以外の収入（主に一般会計からの繰入金）で補填している状況です。これは、現在も供用開始区域を拡大しており、建設への投資が多いことが一因と考えられます。今後、経費削減、財源確保に努め、経営の健全化を図る必要があります。

③流動比率は前年度より増加しましたが、類似団体平均より低い状況です。今後も企業債削減等に努めます。

④企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均値を上回っていますが、これは、当市が未だ管渠未整備地区があり、建設投資の財源として企業債を活用していることに因るものです。

⑥汚水処理原価は、経済的・効率的に汚水処理施設の運転ができているため、類似団体平均値を下回る状況です。

⑦施設利用率は、未だ余裕がある状況ですが、コリーナ矢板排水処理区域との統合、処理区域内の管渠整備を進めているため、今後増加する予定です。

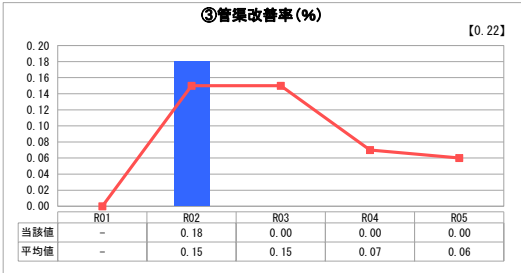
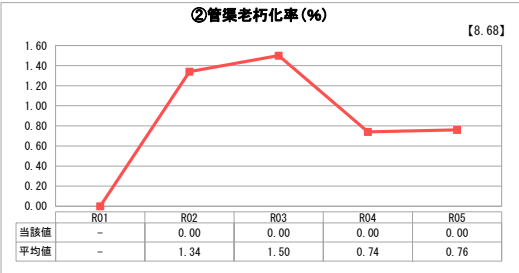
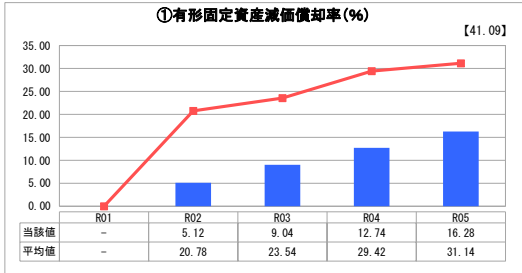
⑧水洗化率は、類似団体平均値を下回る状況です。今後も水洗化の促進に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

水処理センターは、平成3年度の供用開始から既に30年を経過しており、機器及び建物等の老朽化が進んでいます。そのため、ストックマネジメント計画に沿って、施設の維持管理・改築修繕・新規整備を一体的に進めていく予定です。

また、現在、法定耐用年数（50年）を超えた管渠はありませんが、施設点検や管渠カメラ調査等を実施し、適宜、修繕や清掃を進めていきます。

2. 老朽化の状況



全体総括

本市の公共下水道事業は、収入の不足分は一般会計からの繰入金で賄っている状況です。そのため、今後は施設の老朽化を見越した、より適正な施設管理と健全な経営が求められます。

持続可能な事業経営に向け、経営戦略に基づき、効率的な投資と財政基盤の強化に取り組んでいきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。